



第3回

かめやま

生物多様性共生区域

申請受付中

田んぼ・畑や境内など、私たちの身近にも多くの自然が残っています。  
亀山市は、そうした場所を「かめやま生物多様性共生区域」に認定しています。

募集期間：令和6年

**12月25日(火)まで**

詳しくは裏面をご覧ください

<ご相談・お問い合わせ先>

〒519-0166 三重県亀山市布気町442番地

亀山市 産業環境部 生物多様性・獣害対策室

☎ 0595-96-8588

✉ [seijyuu@city.kameyama.mie.jp](mailto:seijyuu@city.kameyama.mie.jp)





## 第3回

# かめやま生物多様性共生区域 認定制度の申請を受け付けています

みなさんの身近なところには、田んぼや畑、神社やお寺の境内、事業所内の緑地など自然が残されている場所がたくさんあります。こうした場所の自然は、私たち人間が管理して利用することで守られ、生物多様性が保全されています。

かめやま生物多様性共生区域認定制度は、市民や市民団体、農林業者、企業等の多様な主体の自発的な取組によって生物多様性が保全されている里地里山や企業の森、ビオトープ等の場所とその取組を認定する制度です。



かめやま生物多様性共生区域

▲認定マーク

## 認定を受けるメリット

認定書が発行され、認定マークを表示することが可能となり、社会貢献活動を行っていることを対外的に示すことができます。

認定を受けた取組内容などについて、市がさまざまな情報発信を行います。

認定を受けた場所で生産された製品に、認定マークを表示して販売することができます。

## 認定を受けるためには

### 募集期間

令和6年10月1日(火)～12月25日(火)

### 申請できる方

申請する土地の所有者または管理者

### 認定対象地

かめやま生物多様性共生区域は、生物多様性が保全されているさまざまな場所が認定対象となります。(面積要件なし)

たとえば

- 田んぼや畑などの農地
- 工場や事業所の中の緑地
- 神社やお寺の境内
- 市民活動団体の活動地 など

### 認定条件

次のすべての要件を満たすこと。

- 土地の場所や境界が明らかであること
  - 土地の所有者や管理者が明らかであること
  - 土地の管理内容が明らかで、生物多様性保全に貢献し、管理が継続されること
  - 土地の生物多様性の状況が明らかであること
- ※認定は、認定審査会による審査のうえ決定します。

### 提出書類

- ①かめやま生物多様性共生区域認定申請書(様式第1号)
- ②申請区域の境界と名称について(様式第2号)
- ③申請区域の統治と管理体制について(様式第3号)
- ④申請区域の生物多様性の状況について(様式第4号)
- ⑤申請区域の生物多様性に係る管理とモニタリング計画について(様式第5号)
- ⑥誓約書(様式第6号)
- ⑦チェックリスト

<添付書類>

- ・ 区域の境界を明示した地図
- ・ 区域及び周辺の状況が分かる写真
- ・ 申請に係る区域の統治責任者管理責任者同意書(申請者と異なる場合のみ)
- ・ 申請に係る区域の管理計画
- ・ 生物多様性の状況を説明する資料(必要に応じ)
- ・ 申請に係る区域のモニタリング計画



様式ダウンロードはこちら  
(龜山市ホームページ)

### 申請・問合せ先

申請書類提出や問合せ、ご相談は下記窓口へお願いします。

〒519-0166 龜山市布気町442 龜山市総合環境センター内  
龜山市産業環境部生物多様性・獣害対策室  
TEL: 0595-96-8588  
E-mail: seijyuu@city.kameyama.mie.jp



# ヤリタナゴの復元について

～今福池に生息していた希少淡水魚～



## ヤリタナゴとは

ヤリタナゴは淡水二枚貝に産卵する珍しい魚で、環境省および三重県が発刊するレッドデータブックに記載される絶滅危惧種です。今福池にはヤリタナゴと二枚貝が生息していた記録がありますが、近年は確認されていません。しかし、ここで生息していた集団を保全団体が保護しているものが生存しており、里帰りできないかと考えています。



亀山市のヤリタナゴ

## 池干しについて

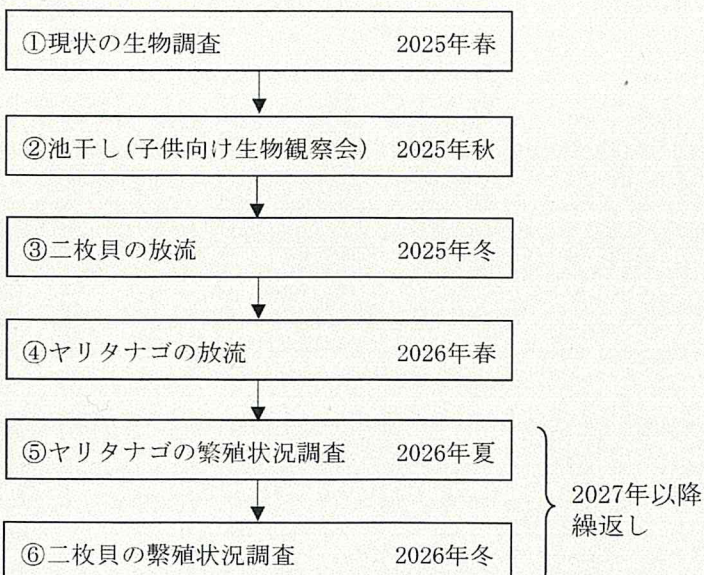
池干しは昔から行われてきた行事です。実施することで池の水質向上が見込まれますが、同時に二枚貝が棲みやすい環境が保たれてきたと言われていています。最近では外来生物の駆除と併せて実施することが多く、在来生物にとってより有益に働く行事となっています。

今福池では、池干しによる環境改善を実施し、ヤリタナゴを中心とした本来の環境を目指したいと考えています。



池干しの様子

## 復元の流れ



左図のように、実施したいと考えています。まずは現状の自然環境調査を実施し、池干しの効果を比較していきます。池干し実施時は子ども向けに環境学習を行います。その後、二枚貝、ヤリタナゴを放流し、それらの繁殖状況を確認します。なお、⑤、⑥の調査は今後継続して行い、定着状況が悪ければその都度策を講じていきます。これらを踏まえ、かめやま生物多様性共生区域への登録も視野に入れて進めます。



